

令和元年9月30日

ICTを活用した離島における教育環境改善のための高校設置等に関する意見

伊江村教育委員会教育行政課長 新城 米広

|             |  |
|-------------|--|
| <p>意見内容</p> | <p>本村においては、高校がなく、中学卒業後は、親元を離れ、沖縄本島等の高校へ進学しております。(15の春)</p> <p>子供たちは幼いながら先輩方を見習い、1人暮らしや兄弟でアパート暮らし、親戚の家や、下宿、寄宿舎等、様々な条件から生活手段を選択し、高校へ通っております。</p> <p>しかしながら、違った環境において子どもたちは大きなストレスや様々な問題を抱え、それに耐えきれず、休学する生徒、中には退学する生徒もおります。</p> <p>現在、県内40校、県外2校の高校に127名が進学しており、村からは1人当たり月額20千円を支給しております。(村予算：年額30,480千円) 保護者の仕送りも月平均して10万円となっており、国や村の奨学金制度を活用しておりますが、ほとんどの家庭がローンに頼らざるを得ない状況にあります。保護者においては、離れて暮らす子どもの世帯と自分の世帯の2世帯分の経費がかかり、経済的に苦しい状況にあります。中には兄弟が多く、県外の大学に進学した学生をもつ保護者は、3世帯又は4世帯分とさらに負担を強いられることとなります。</p> <p>このような状況を踏まえ、村外の高校に進学するしか選択枠がありませんでしたが、高校のない離島でICTを活用した教育が受けられるのであれば、画期的なことであり、これまで不利とされていた環境が、逆に有利なものとして捉え、子をもつ親としても期待感を寄せるものと思われれます。</p> <p>国におきましては、離島であるが故に余儀なくされる負担の軽減策の1つとして、本事業を推進していただきますよう期待し、要望いたします。</p> |
|-------------|--|